

れきはく NEWS

島根県立古代出雲歴史博物館の
旬な話題や情報をお届けします

vol.65
2026.MAY

Shimane Museum of Ancient Izumo

CONTENTS

- 2 「れきはく」館長あいさつ
- 3 リニューアル記念 特別展 その後のワロチとスサノヲ
- 4 学芸員通信／古代文化センター通信
- 5 館蔵品の紹介／学芸員が語る!ミュージアム講座
- 6 アテンダント通信
- 7 「れきはくであそぼ」を開催しました!
2026～2027年 古代出雲歴史博物館 展覧会スケジュール
- 8 令和8年度イベントスケジュール

工事を終え開館を待つエントランス
これからお客様をお迎える準備がはじまります。





「れきはく」館長あいさつ

古代出雲歴史博物館 館長 岡本 成生

このたび、当博物館の館長に就任いたしました岡本と申します。

どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

古代出雲歴史博物館は、広々とした敷地の中に、緑豊かな庭園が広がり、北山山系の緑を背にして、建物の姿がひとときわ際立っています。4月のはじめには、出雲大社境内の桜や、山あいには霞む桜も彩りを添え、就任して以来、こうした素晴らしい環境の中で仕事ができる喜びを感じています。

当博物館は、平成19年3月の開館以来、「れきはく」として皆様から親しまれ、県内外から、多くの皆様にご来館、ご利用いただいておりますことに、心より厚く御礼申し上げます。

就任後、当博物館を整備する契機となった、荒神谷遺跡や加茂岩倉遺跡の青銅器の数々、出雲大社境内遺跡から出土した巨大柱など、貴重な文化財を目の当りにしますと、「島根の特色ある歴史・文化の調査研究と成果の発信」「歴史と文化を生かした人づくり、地域づくりへの貢献」という当博物館の使命の重さを改めて感じ、さらに、この長い歴史の中で引き継がれてきた財産を「未来へつなぐ」ことの責任の大きさを、深く自覚したところです。

さて、当博物館は、昨年の春から、天井耐震改修工事等のため休館しております。皆様には、大変、ご不便をおかけしておりますが、工事は順調に進んでおり、10月のオープンに向け、準備を進めているところです。

休館している間も、学校団体への体験学習や出前授業など、学びの場の提供や、他の施設や団体が主催するイベントへの出展などに引き続き取り組んでおり、博物館の魅力や楽しさを、広く知っていただけるよう努めております。

リニューアルオープンにあたりましては、改修工事にあわせ、島根の歴史や文化の魅力を、これまで以上に楽しみ、学びやすくなるよう、展示の内容や構成を一部見直すとともに、館内の映像を、より高画質・高品質でご覧いただくため、機器等の更新も進めています。

オープンの際には、ぜひとも足をお運びいただきますようお願いいたします。

これからも、島根の特色ある歴史や文化を、県内外に発信し続けるとともに、これまで以上に、幅広い皆様にご利用いただき、皆様から親しまれる博物館を目指して、学芸員をはじめ、アテンドやボランティアスタッフなど、当館に関わる全ての職員が一丸となって取り組んでまいりますので、皆様のより一層のご指導、ご支援を心よりお願い申し上げます。



2026年10月9日(金)～11月29日(日)

※会期中の休館日／10月20日(火)・11月10日(火)・11月17日(火)

日本神話のなかで最もよく知られている、スサノヲのヲロチ退治。この物語は中世以降、時代の移ろいのなかで様々な変容しながら語り継がれました。リニューアル記念となる本展では、多様なヲロチとスサノヲの姿を描き出し、人々が“人智を超越した存在”にどのように向き合ってきたのか、を探ります。

■展示の構成

I. プロローグ

『古事記』『日本書紀』に伝えられる英雄神スサノヲの特異な神格と、後世のゆれ動く評価について紹介します。

II. ヲロチの起源

考古資料や神話・説話などを通して、太古から受け継がれてきた蛇に対する古人の心性を探ります。

III. ヲロチ神話の展開

ヲロチ神話の内容が、中世には『日本書紀』や『古今集仮名序』などの解釈を通じて、複雑多様に展開していったことを紹介します。

IV. その後のヲロチ

退治されたはずのヲロチが生まれ変わった？

くさなぎのつるぎ
ヤマトタケルの死、草薙剣窃盗事件、安徳帝入水による宝剣喪失などの諸事件が、新たなヲロチ神話を生み出していったことを紹介します。

V. 出雲のスサノヲとヲロチ

ヲロチ神話の舞台である出雲。『記・紀』とは異なる性格のスサノヲが伝えられ、やがて出雲独自の伝説が育まれました。そのような伝説が、出雲の神楽にも影響を与えたことを紹介します。

VI. 救済の神、スサノヲ

ごすてんのう
スサノヲは仏教の神・牛頭天王と同一視されました。疫病などの災いをはらうため、人々が心をひとつにして、その勇猛な神威を仰いでいたことを紹介します。

休館中の出前授業「れきはくキャラバン」

博物館はリニューアルのため9月末(予定)まで休館しておりますが、休館中も学校との連携事業『ミュージアム・スクール』を実施しています。この事業の一つに、今回紹介する「れきはくキャラバン」があります。

「れきはくキャラバン」とは、当館の学芸員や博物館スタッフが“キャラバン隊”を組んで小中学校や高校を訪問し、体験学習や歴史講座などの授業を行うものです。中でも人気の体験メニューが『奈良の大仏づくり体験』です。これは、奈良の東大寺大仏の大きさについて、実物大のイラストパネル(188枚)を組み立てて体感するプログラムで、合わせて地域の奈良時代の歴史や大仏が作られた背景について解説します。

このプログラム以外にも、「勾玉づくり体験」や「合金製和同開珎づくり」、国宝青銅器の復元品に触れる体験の他、「総合的な学習」「探究学習」における歴史・郷土学習への支援なども行っています。特に休館中は

体験料無料(～9月末まで)で実施していますので、まずは電話やメールで交流・普及スタッフまでお問い合わせください(詳しくは当館のHPをご覧ください)。

交流・普及スタッフ 深田 浩



大仏パネルづくりの様子

古代文化センター通信

『出雲国風土記』成立1300年記念動画の公開

平城京に都が遷ってしばらく経った713年、全国に風土記の作成が命じられました。当時は約60の国があり、それぞれから完成した風土記が中央に進上されてきたと考えられます。ただし、現在まではほぼ完全な形で伝わっているのは『出雲国風土記』をのいてほかにありません。

これに加えて、成立した年代(733年)がはっきりわかるのも、『出雲国風土記』のみの特徴です。つまり「成立〇〇〇年」というように、記念すべき年を祝うことができるのは“出雲だけ”なのです。そして来る2033年、『出雲国風土記』は成立1300年を迎えます。このメモリアルな年を記念し、風土記の魅力を全国・そして世界へ発信するためのPR動画を作成することになりました。

EPISODE1と題した1本目の動画の舞台は、奥出雲町の「鬼の舌震^{したふるい}」。川の急流が創り出した不思議な景観と、それにまつわる風土記の伝承について、ドローン映像や東京大学名誉教授で島根県特別顧問でもある佐藤信さんの解説を交えてお送りします。またナレーションには、島根県出身の俳優・佐野史郎さんをお迎え

しました。佐野さんの重厚な語り口が、皆さんを風土記の世界へと誘います。

2033年に向けて、最終的には郡ごとに合計9本の動画を公開したいと考えています。足掛け7年のプロジェクトを、皆さんもぜひお楽しみください。

交流・普及スタッフ 橋本 剛

○動画の閲覧方法

島根県古代文化センターのYouTubeチャンネル「しまこだチャンネル」にて公開
『出雲国風土記』EPISODE1 仁多郡編～恋山～
<https://youtu.be/01cJ7Jxk1o8>



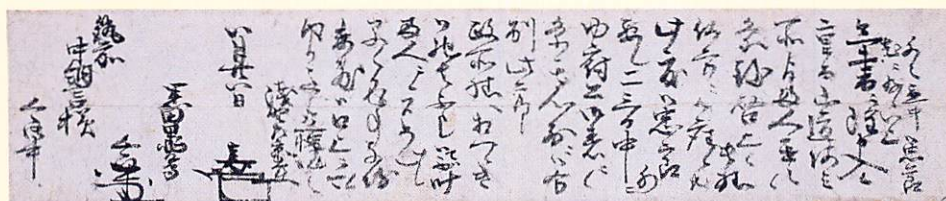
“館蔵品”が雑誌や映像番組に登場しています

歴史を扱った雑誌や映像番組を見聞きすることも多い今日このごろです。それらには、博物館などあちこちに収蔵されている貴重な文化財が登場することもしばしばです。当館の収蔵品には、過去5年間の雑誌や映像番組で毎年1回は必ず見られたものがあります。

関ヶ原の戦いは、皆さんよくご存じですね。慶長5年（1600）9月15日、徳川家康率いる東軍が敵対する西軍に勝利し、江戸時代へと時代は大きく移り変わりました。

この戦いを扱った雑誌や映像番組によく登場しているのが、当館の館蔵品「浅野幸長・黒田長政連署状」です。戦い直前の8月28日付けで、東軍の浅野・黒田の二人が西軍の小早川秀秋にあてた手紙です。二人は「北政所様へ引き続き仕える身だから」東軍に属すのだと述べ、秀秋の東軍参加を促しています。亡き豊臣秀吉の妻・北政所は三人が共通してゆかりのある人物ですので、二人はそれを引き合いに出し、秀秋に味方につくよう訴えたのでしょう。

この連署状は、関ヶ原の戦いの結果を大きく左右した、小早川秀秋の東軍への寝返りに関するものです。これからも、歴史を扱う雑誌や映像番組に関ヶ原がとりあげられると、この館蔵品が登場するかもしれません。



浅野幸長・黒田長政連署状(縦:8.1cm、横:39.4cmと小さな密書です)

学芸情報課
目次謙一

令和8年度

学芸員が語る！

ミュージアム講座

受講者募集中

第2回

6月7日(日)

出土品をのこすー保存修理の理論と技術ー

専門学芸員 澤田正明

発掘調査で見つかる出土品は、そのままにしておくとう傷んでしまうものが多くあります。調査研究や展示をするために、どのような処置をしているか、貴重な文化財を未来に残す方法をご紹介します。

第3回

7月5日(日)

古墳時代のはじまりと出雲

主任学芸員 吉松優希

古墳時代のはじまりとともに出現する前方後円墳。出雲にはいつ前方後円墳が出現したのでしょうか？古墳時代のはじまりの頃、出雲はどのような状況だったのか、最新の調査成果も含めながら考えていきます。

今後の開催スケジュール

第4回

8月2日(日)

律令国家の誕生と古代出雲

主任学芸員 橋本 剛

第5回

9月6日(日)

出雲の勾玉はいかにして誕生したか？

ー9月6日は「勾玉の日」ー

調整監 深田 浩

開館直前！

リニューアル後の歴博みどころ講座

主任学芸員 小田七奈

当館の学芸員が、鳥根県の歴史・文化についてわかりやすく解説する連続講座です。

現在6月・7月の受講者を募集しています。初心者の方でもお楽しみいただける内容となっておりますので、ぜひご参加ください。

開催日 6月～9月の第1日曜日

定員 各回60名(先着順) **時間** 10:00～11:30

申し込み 電話またはホームページのイベント参加フォーム(しまね電子申請)でお申し込みください。

【申し込み先】 TEL.0853-53-8600 <https://www.izm.ed.jp>

アテンダント通信

リニューアルオープンに向けて アテンダントも動き出します！

新しいアテンダントを加え、さらにパワーアップしてリニューアルオープンを迎えられるように準備をすすめています。



県内外の誘客活動にも 出掛けています

リニューアルオープンに多くのお客様に来ていただけるように、島根県内はもとより県外にもPRに出掛けています。旅行会社主催の商談会や旅行会社各社への訪問などを通して、博物館の魅力をお伝えしています。



東京の旅行会社を訪問しました

出雲弥生の森博物館・周辺古墳の見学

当館の展示室にある「四隅突出型墳丘墓」の模型。特徴的な形をした弥生時代の王墓です。休館中を利用して改めてその知識を深めようと、出雲弥生の森博物館を訪れました。

学芸員の方に、なぜ出雲にこんな不思議な形の王墓が出来たのか、どんな人が埋葬されていたのかなど、巨大ジオラマや勾玉・腕輪などの副葬品の展示を通して分かりやすく解説していただきました。特に王の葬儀を再現した1/10のジオラマは見ごたえがあり、当時の人々に思いを馳せることができます。

西谷墳墓群史跡公園も見学し、四隅突出型墳丘墓を自分の足で歩いてみました。実際に歩いてみるとその大きさに圧倒され、当時の出雲の王様がいかに力を持っていたかを実感することができます。

また出雲市内にある上塩冶築山古墳や今市大念寺古墳も案内していただき、巨大な石室内の精巧な造りに古代の職人の高い技術を感じました。ぜひ皆さまも、出雲弥生の森博物館や出雲市内の古墳を訪れてみてはいかがでしょうか。



「れきはくであそぼ」を 開催しました！

3月10日の開館記念日に合わせて毎年開催している「れきはくであそぼ」を今年も開催しました。

アテンダントによる紙芝居やクイズのステージ、オリジナルチャームやけん玉を作る工作コーナー、クイズラリーなど盛りだくさんの内容で、家族連れを中心にたくさんの方々に楽しんでいただきました。

段ボール迷路やふわふわ遊具、また外遊びのおもちゃ貸し出しなど体を動かして遊べるものもあり、子どもたちの元気いっぱいの声が響いていました。ご来館いただいた皆さま、ありがとうございました。



2026～2027年 古代出雲歴史博物館 展覧会スケジュール

■ 開館20周年記念 企画展

しまねの鋳物 -お鍋から、お宝まで-

2027年3月10日(水)～5月16日(日)

※会期中の休館日／3月16日(火)・4月6日(火)・4月20日(火)・5月11日(火)

金属を熱して溶かし、鋳型に流し込んで作られた「鋳物」。人々の生活に鋳物は不可欠で、弥生時代の銅鐸から現代の自動車部品に至るまで、歴史上、数多くの鋳物が暮らしを支えてきました。

この企画展では、鋳物作りが全国に展開した鎌倉時代から現代に至る、島根県の鋳物の歩みをたどります。鍋や釜といった生活用具から寺院の鐘・仏具など信仰用具、さらには超絶技巧を凝らした美術工芸品など、幅広い鋳物ワールドの技と美にせまります。さらには、現在も全国上位を誇る、島根県内の鋳造産業を紹介し、鋳物の未来を考えます。



Life-size Bust

神々の国の
首都 松江
小泉八雲

松江市・遠所美術鋳造所製作
小泉八雲記念碑(鋳銅型レリーフ)の原型
松江歴史館蔵

■ 石見銀山発見500年・世界遺産登録20周年記念特別展

大銀山展 (仮)

2027年7月～9月(予定)

2027年は、1527(大永7)年に石見銀山が発見されてからちょうど500年の節目の年にあたります。最盛期となる17世紀初頭にかけて、石見銀山は世界中で取引された銀の10%以上を産出したといわれています。その銀を求めてヨーロッパ・アジアの人々が行き来することで、世界の経済が動くと共に、様々な文化が日本に伝わりました。

本特別展では、石見銀山の発見から衰退期の苦闘、近代の再開発、そして現代への継承について振り返り、日本国内だけでなく世界の経済と交流に大きな影響を与えた石見銀山について、その悠久の価値と魅力を紹介する予定です。



御取納丁銀
当館蔵

令和8年度イベントスケジュール

学芸員が語る!ミュージアム講座
6/7(日) 「出土品をのこすー保存修理の理論と技術ー」
 講師:専門学芸員 澤田正明

学芸員が語る!ミュージアム講座
7/5(日) 「古墳時代のはじまりと出雲」
 講師:主任学芸員 吉松優希

7/26(日) 「2026れきはく夏まつりmini」



学芸員が語る!ミュージアム講座
8/2(日) 「律令国家の誕生と古代出雲」
 講師:主任学芸員 橋本 剛



学芸員が語る!ミュージアム講座
 「出雲の勾玉はいかにして誕生したか?」
 「9月6日は「勾玉の日」ー」

9/6(日) 講師:調整監 深田 浩

「開館直前!リニューアル後の
 歴博みどころ講座」 講師:主任学芸員 小田七奈



9/6(日) 「観月会~月待の会」

10/1(木) 「リニューアルオープン!」

10/4(日) 「れきはく秋まつり2026」



10/9(金) 「リニューアル記念 特別展 その後のヲロチとスサノヲ」開幕

1/1(金・祝)~3(日) 「れきはく新年まつり」



3/14(日) 「開館記念イベント れきはくであそぼ」



島根県立古代出雲歴史博物館

Shimane Museum of Ancient Izumo

〒699-0701 島根県出雲市大社町杵築東99-4
 TEL.0853-53-8600(代) FAX.0853-53-5350
 [URL] <https://www.izm.ed.jp> [E-mail] contact@izm.ed.jp
 令和7(2025)年4月1日~令和8(2026)年9月(予定)の間、
 耐震改修工事等のため休館



マスコットキャラクター
雲太くん



発行/令和8年5月



マスコットキャラクター
出雲ちゃん